

学習会(子ども会)だより7月号 後編
 MY SKY 第7号
 マイ スカイ

1995年7月25日火曜日発行(毎月第2・第4土曜後の火曜日定期発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責：吉成正士

今回で1学期は最終号となりました。本当は7月25日発行ですが、休み中なので、^{ひとあし}一足早く出させてもらいました。

本号も、いろいろと感じたことを、盛りだくさんに^{まんさい}満載しました。ご覧あれ!



◎1年目の先生も10年目の先生も関係ない! (7月6・7日:四同研大会より)

7月6・7日と、四国地区同和教育研究会徳島大会に参加・出張させてもらいました。その中で、いろんな人と会うことができました。

私は「^{しんろほしょう}進路保障」という500人ほどの部会に出ていました。「様々な学校で、将来に向けての進路保障をどのように行っているか」ということについて^{とうぎ}討議していくのです。その中で、愛媛県のお父さんが^{いかおき}怒りを抑えながら、こう発言しました。

子どもは先生を選べないんです。けれども、その中で子どもたちはけなげにも一生懸命に^{がんば}頑張ろうとしてるんです。そのことを受けて、学校の先生は「ほんものの教育」というものに取り組んでほしいんです。上から^{ものごと}物事を教えるというんじゃなく、子どもと同じレベルに立って考えることを努力してほしいんですよ。

このような大会で、素晴らしい取り組みを発表してくれるのもいいですが、すべてが^{かんぺき}完璧にできているはずないでしょ。できてないことを「できていない」と発表してそれを出発点にして、これからどうしていかなければいけないのかということについての論議をしてもらいたいんですよ。もっとドロドロしたものがあるでしょ。この問題は、すんなりと会が終わってしまうような簡単な問題じゃないんですよ。

それと、みなさん!みなさんは部落差別を利用してやしませんか。こういう会を開いて、^{ぎむてき}義務的にやって、差別をバラまいとるだけやないですか。部落差別を利用して会を始め、終わらせとるんやないですか。本当に、社会の中に残されとる「差別構造」をきちんと^{とら}捉えて、教育に取り組んでほしいんですよ。

よく「10年目の先生はベテランで同和教育もできるけど、1年目の先生は^{しんまい}新米だからできない」って言いますが、私たちにとっちゃあ、1年目の先生も10年目の先生

も関係ないんですよ。そこで違いがあっちゃあ話にならんですよ。……

お父さんの思いが少しは伝わってくるでしょうか。最後にお父さんは、同じ県内の部落出身教師に「頑張ろうやないですか!」と問いかけていきました。

ここまで言われて黙^{だま}っている私ではありません。すぐさま発言させてもらいました。(本当はあててくれなかったので、マイクを取りに行き勝手にしゃべりだしたのですが……)

何をどうしゃべったか、今では定^{さだ}かではありませんが、一つだけ覚えているのは

……お父さんが、出身教師の方々に「頑張ろうやないですか!」と言うのなら、私は「自分は部落外」と思っている教師の方々に言いたい。「部落外と思っている先生方ももっと頑張ろうやないですか!」と……

このやりとりの最^{さいちゅう}中に、司会をされている方が「この問題は難しい問題なので……」と言っていました。けど、だからこそ難しい、難しいと頭^{かみ}を抱えている場合ではない!そうしている間にも動けることがあるんじゃないか?そう思うんです。難しい問題にしているのは、実は自分自身の差別意識であって、その意識が自分の顔の表情を暗く、重いものにしてているんだと思うんです。

ところが、このへんの「どうしようもない」大人たちに大きな波紋^{はもん}を投げかけた部落の青年^{せいねん}がいました。今年の春に高校を卒業し、大学入学を果^はたした彼は、高校在学中に県内の「高校生友の会」活動^{しげき}に刺激を受け、自らの立場をしっかりと自覚するとともに、それまでの自分の意識を180度変え、堂々と卒業していくことになりました。「友の会」の仲間が彼の意識を大きく変えていったのです。その彼が、今は教師になることを夢見て大学で頑張っていることを、本当に明るく、のびのびと、さわやかに、いきいきと、張りのある大きな声で語ってくれました。若さというものは素晴らしい!そう思わせてくれる発言でした。彼の前では、どんな障害もどこかに飛んで消えてしまいそうでした。

私は思います。真の進路保障とは「自分の夢を実現するために努力をし続けるという自覚を持つということ」だと。けど、今の社会は「夢」なんていつの間にかどこかに捨てられて、何かと言えば「勉強!勉強!」。確かに勉強をして成績のいい子もいるだろうけど、いったい何のために勉強しているの?

いい会社に入るため? いい大学に入るため? いい高校に入るため?

そこに行って何がしたいの?

お金がほしいの? 贅^{ぜいたく}沢がしたいの? 何か大切なことを忘れてない?

「問題を解く力」をつけるのなら、同じように「自分の将来の進路を切り拓いていく力」もつけなきゃいけないんじゃない？今の状況なら、そっちの方の力をつけることを考えないといけないんじゃない？もしそれがしっかりしていれば「勉強！勉強！」言われなくても、自分の遠い未来に向けて頑張れるんじゃないかな。たとえくじけそうになっても、自分に甘えてしまいそうになっても、本当に「夢」を叶えたいければ、頑張りがきれるんじゃないかな。みんながそんなふうに自分の夢を目指せたら……考えただけで、愉快的気分になっちゃうよね。そんな「進路保障」をつかんでいける学校でありたいと、私は思います。



◎鬼やってえいっしょに遊びたいねん（7月11日：町同研 板野保育園より）

ところでみなさん、6月22日にあった3年E組の全校全体学習が、板野町同和教育研究会だったのを覚えているでしょうか。その板野町同和教育研究会が、町内3小学校や、板野高校、板野養護学校、町内の保育園・幼稚園でも行われていることは知っていましたか？

実は7月11日に、板野保育園で板野町同和教育研究会が行われました。ちっちゃい子どもたちが遊んでいる姿を見に行ってきたのです。みなさんにもそんな頃があったのでしょうかね。私にも、阿部先生にもそんな頃があったんですねえ。フフフ……

砂遊びをしている子、水鉄砲で遊んでいる子、草花で遊んでいる子、どろんこ遊びをしている子、いろいろな子がいました。一方、部屋の中を覗いてみると、外で遊ぶのではなく、いろいろな遊具で遊んでいる子もいました。ブロックで遊んでいる子、お人形で遊んでいる子……。部屋に入ろうとすると、部屋の前には、ザリガニ、かぶと虫、おたまじゃくし、すず虫などの生物が大切に育てられていました。それらを眺めながら中に入っていくと、一人の男の子が走り寄って来てこう言いました。

「オオカミがおる！」

私は「ん？オオカミの人形でもあるのか？」と思いながらも「へえ、オオカミがおるん。どこ？」と部屋の中に入っていきました。しかしどこにもそれらしきモノはありません。「？……何か紙にでも書いて張ってあるのかな？」と思いぐるり見渡してみましたが、そうでもありません。その男の子にまた尋ねました。「オオカミさんどこにおるん？」「外に逃げていった！」その子の言うまま、裏の庭に出してみました。その頃には4・5人はいたでし

ようか。しかし裏庭にもそれらしきモノはいません。ただの草むらがあるだけです。もう一度尋ねました。「オオカミはどこいったん?」「向こうに逃げていった」そこで私は思いました。「あっ、これは犬のことを言っているんだ!」ところが振り向きざま次の瞬間「ここにおる!」と一人の女の子が叫びました。「ん??」そんなモノどこにもいません。それでやっとのことわかりました。つまり子どもたちは、見えないモノをわざと作り出して、遊んでいたのです。そう、見えない恐怖=「悪」をみんなで作り出して遊んでいたのです。それがわかったとき、私は「これは恐いことだ!」と瞬間的に感じました。なぜなら、すごく部落差別と重なるからです。部落というモノは、目に見えないモノです。にもかかわらず、偏った目で見えてしまうことが多くあります。そういう意識を、こんなに小さい子たちが、もうすでに学んでしまっているのです。差別の土台になることを、遊びの中で学んでしまっているのです!これはすごく恐ろしいことだと思いませんか?「小さい頃から同和教育なんてしなくても……」と思っている人もいるかもしれませんが、小さい子にも必要なんですね。むしろ、小さいからこそ必要なのかもしれない。

このすぐ後、一人の子が「オオカミやっつけた」と言ってきました。そこで私はこう切り返しました。「オオカミさんかわいそうやなあ」とすると「ううん。オオカミは悪いことするからいいん」もう一度切り返しました。「どんな悪いことするん?」「……………」言葉につまって、この子はどこかに走り去ってしまいました。

みなさん。みなさんの中で、オオカミはどんな存在ですか?やはり悪いイメージとして残っていますか?もしそうだとすれば、それはどこからきたのでしょうか?

それに対して、オオカミとは本当に「悪もの」なのでしょうか?みなさんはオオカミから何かされたことがありますか?動物園で見たときはどうでしたか?

このタイトルになっている言葉をもう一度見てみてください。「鬼やってえいっしょに遊びたいねん」このタイトルは、実はある本の題なのだそうです。「いつもいつも悪者として扱われている鬼だって、本当はみんなとっしょに遊びたいんだ。見かけやイメージだけで、本当のことをよく知りもしないで判断しないでおくれ!鬼だって、本当は一緒に遊びたいんだよ。だから人のいるところに出て来るんだよ」ということを描いているんだそうです。

みなさんの心の中に「オオカミさん」や「鬼さん」はいませんか?



◎パー子頑張れ！(保健所による野犬捕獲より)

ちょっと一息^{ひといき}入れて、パー子^{ぱーこ}のことを書かせてください。みなさんも知っての通り、板野中学校で一緒に暮らしている(?)犬、パー子^{ぱーこ}のことです。

ちょっと前に、保健所の方々が野犬捕獲のために本校に来ていました。不思議なもので、保健所の人たちが来ると、パー子たちはどこへともなく隠^{かく}れてしまいます。そして今もたくましく私たちになついてくれます。不思議ですねえ。

実はあの時に、一人の女の子が目のまわりを真っ赤にして泣いていました。「どしたん？」ときくと「犬が連れて行かれて殺されてしまうのがかわいそう！……」と言うんです。素晴らしい感受性^{かんじうせい}ですね。大人になると「仕方ない」と諦^{あきら}めてしまうこともよくあるのですが、本当は決して失いたくない感性です。

ここで、二つほどみなさんに考えてもらいたいことがあります。

まず一つめ。本当に犬が人間に危害^{きがい}を加えることもあるんだということ。これはこの女の子にはすごく厳しい言葉^{きび}かもしれませんが、実際につい半年ほど前にも子どもが野犬に食い殺されています。人間と犬、どちらの生命を大切にするか？どちらも大切にされねばならないと思います。しかし、食い殺された子どものご両親はどんな気持ちになったでしょう？「仕方ない」で済^すまされたのでしょうか？犬も人間も、自分を基準^{きじゆん}に生きています。人間にとってどおってことないようなことでも、犬にすれば命にかかわることもあれば、犬にとってどおってことないようなことでも、人間にすれば命にかかわることもあります。それぞれが分かり合える言葉^{ことば}をもち、それを理解できる能力があればこんなことをする必要はないと思います。しかし、現実はそのではありません。飼い犬の場合であれば分かり合えるかもしれませんが、すべてがそううまくはいきません。残念です。

二つめに入る前に「牛のかたき討ち」というお話を思い出しておきたいと思います。

昔あるところで、牛が飼い主^{かひぬし}を一突き^{ひとつき}して殺してしまいました。その罪として、逆に牛は手足^{てあし}を縛^{しば}られ突き殺されてしまうというお話です。それらの一部始終^{ぶしじゆう}を見ていた人たちは、初めは飼い主に同情し「牛を殺せ！突け！」と言ってきますが、牛が殺され始めると、今度は牛に同情し、突き人に悪意^{あくい}をもつようになります。そのときの突き人が部落の人なんですね。はたして突き人は好き好^{この}んで牛を殺したのでしょうか？それをして何の得があるのでしょうか？何事^{なにごと}においても、命あるものに直接手^てを下^{くだ}す人は、いいようには見られませんでした。そういう意識^{いしき}を巧みに利用した政治^{たか}だったというお話です。

今回の場合も冷静に考えてみませんか。保健所の方々が好き好んで犬を殺すのでしょうか？血も涙もない人でしょうか？私は、決してそうではないと思います。人の命を守る大切な仕事として、その職業に誇りを持って頑張っていると思います。その人たちを恨むことは、お門違いだと思うんです。

今の地球は「人間社会」と言ってもいいくらいだと思います。ということは、その陰では、私たちの目に触れる、触れないに関係なく、他の生物を苦しめているということだと思っんです。つまり、私たち人間が生活している以上、他の生物に危害を加えてしまうんだということです。まずそのことをしっかり自覚しておきたいと思います。

しかし、だからといって何をしてもいいと言うわけではありません。「放し飼いにする」や、「ペットを捨てる」また「ペットを虐待する」といった、自分勝手な考えは、やはりしかるべき処分を受けべきです。あくまでも、互いの命を大切にすることに変わりはないのですから！

あの時、守ろうとしていたみなさん！真っ赤な目をして泣いていたあなた！その、お金で買えない気持ちを、いついつまでも大切にしてくださいね。



◎私、この子産んでよかったー（7月10・13日：学習会保護者会より）

7月の10日に南校区、また13日には東・西校区の学習会保護者会をもちました。今回も前回に引き続き、すごく熱のこもったエネルギーを感じることができました。

まず、両日とも会の中で出てきたのは「学習会と塾との違い」についてでした。

学習会場は全部で5会場あるわけですが、会場によって多少の違いこそあれ、残念ながら教科学習時の学習に対する姿勢が良くないということです。そのためにはどうすればいいのか？原因として、いったい何が欠けているのか？そのことについて、もっと考える必要があるようです。

「学習会と塾との違いは？」と尋ねられたら、たいていの人は「学習会には部落問題学習がある」と答えられるようです。確かにそのとおりで、学習会は部落問題学習と教科学習を2本の大きな柱にしています。しかし、部落問題学習の時には発言できないことから「せこい」思いをし、教科学習の時には真面目に学習したいのに「できない」から、学習会に来ない子ができてくる。だから、塾に行くようになってしまうのではないかということです。

しかしここでもう一度考えなければいけないことは、どうして学習会というものがあるのかということです。もうこのことについても、みなさん知っていると思います。不合理な部落差別のために、生活や命、人間としての誇りすら奪^{うば}われてきた先人^{せんじん}が『これからの未来に向けて子どもたちに必要なことは「教育」である』と考えたからです。まったくその通りで、初めの頃の学習会には、部落差別に負けないために、闘うために、みんなが一生懸命になって学習に取り組んでいたようです。ところが、今の学習会ではそういうような立場の自覚が欠けているんですね。つまり「部落の人間であるという立場の自覚」に欠けているんです。私たちはそのことを、もう一度確認しなければならないのではないのでしょうか。そのことを考えれば、学習会が塾とは全く違うものだということがわかるのではないのでしょうか。

いく人かのお母さんが「子どもに教えられるようになりました。まだまだそんなに前には進められていませんが、今では『2歩下がっても3歩前に進めば1歩前進していることになる』と思えるようになってきました」と、発言してくれました。また、やはり初めは学校の部落問題学習に対して消極^{しょうきよくてき}的だったお母さんが「たくさん、毎日のように子どもとこの問題についてぶつかりましたけど、今では『私、この子産んでよかったー』と思えるようになってきたんです……」と言ってくれました。この言葉を聞いたとき、私は身震^{みふる}いを感じました。「いいなあ。こんな家族っていいなあ」と、正直^{しょうじき}に思いました。お母さんや家族の人がこれだけ変わっていったのは、まず子ども自身が「部落の人間であるという立場の自覚」をしっかりと持って「そのために自分はどうしなければいけないのか？」ということ、常に自分に問い続けた結果だと思うんです。先に書いた部落の青年にしてもそうです。

そういう自覚が、今求められているのだと思うんです。学習会を担当する者として、反省しなければなりません。学習会の仲間をあまやか^{たらく}し、墮落^{だらく}させてはいけません。間違^{まちが}った厳^{きび}しさで、仲間割^われさせてもいけません。学習会の本当の意味を、今一度考えなおしたいと思います。

それともう一つ、気になる話題が出てきました。実は偶然^{ぐうぜん}にも、そのことは後日徳島新聞にも出てきました。

「生徒らに声かけ卒業文集“拝借^{はいしゃく}”」「教材セールスに流用^{りゅうよう}か」

「個人情^{じようほうあくよう}報^{おそ}悪用の恐れも」

(徳島新聞1995年7月14日)

みなさんの家には、塾や家庭教師、教材セールスを勧めるための電話はかかっています

んか？その内容にカチッときませんでしたか？ある保護者は、子どもの将来の希望をきかれた後、相手にこう言われたそうです。「それでは〇〇高校ではダメですねえ。××高校に行かないと無理ですよ」もう、むちゃくちゃ腹が立ってしまいました。いったいその人はどこまでのこと知って、そんなことを言っているのでしょうか？単に学歴差別をばらまいているだけのように思います。それが私たちと同じ大人というんですから、情けない！それを商売にしているわけですよ。相手の弱み「勉強ができなければ、いい肩書きがなければ、社会に出ても通用しませんよ」という言葉で巧みに導きながら、商売をしているわけです。みなさん、そそのかされてはいけませんよ。

また彼らは、どこからともなく住所や電話番号を調べてきます。その手口たるや、情けない限りです。確かにその人も生活がかかっているのかもしれませんが。その人を使っている人こそが、腹黒いわけです。しかし、どのみち泣き落としや現金、図書券で子どもをだまし、卒業文集を手に入れるわけですから、その人も相当の「悪」だと考えてよいと思います。

ここで思い出しておきたいことは「部落地名総鑑」です。昔、どこからともなく、全国の部落の地名を調べあげ、まとめた本が出回り大問題になりました。それは形を変えて今でも残っています。そういう「えげつない」ことをする社会って、何なんでしょうね？もう、腹が立って、夜も眠れないという感じです。同和教育が徹底されていなかったから、そんな人が出てきたのでしょうか？もしそうだとすれば、もっともっと、私たちは今の取り組みを広げねばなりませんし、もっともっと前に進まねばなりません。

私たちが解決すべき問題はたくさんあります。そのためには、一人でも多くの仲間を作ることだと思えます。そして、いろいろなことについて議論することだと思えます。今回、いつもになくいろいろなことについて触れることができました。議論のネタはどこにでも転がっています。そのネタを、ただの石ころと見るか、それとも輝く宝石と見るか、この違いは大きいと感じます。みなさん、もっともっと生活を見つめてください。

追伸：いたずら電話は、相手の迷惑になるのでいけませんよ。そのたっすいいたずら電話のおかげで、どこかに得をしている人がいるんですよ……物まよ物まよ



◇ ◇ ◇ にっぺい これからの日程 ◇ ◇ ◇

夏休み中にもいろいろなイベントが催されます。特に一泊研修には、日頃学習会に参加

できていないみなさんも、できるだけ参加をして、この問題についてとことん話し合いをしようじゃありませんか！食べ物も空気もすべてが新鮮な「あいあいランド」で！

また、県下の部落解放を願い活動している高校生が集う県奨や、その全国版の全奨もあります。ぜひとも誘い合わせて参加してみましょう！

その他に、夏休みの後半には進路決定をひかえた学習会の3年生に補充学習会が行われます。自らの進路目指して、今の自分を輝かせましょう！

★7月21日(金) 徳島県部落解放高校生奨学生集会(徳島市：郷土文化会館)

★8月3日(月)～5日(土) 全国部落解放高校生奨学生集会(高知市)

★8月8日(火)・9日(水) 学習会一泊研修(相生町：あいあいランド)

★3年生・夏休みの学習会

8月16日(水)	国語・理科	午前9:00～11:30	場 所：郡頭教育集会所
17日(木)	社会・数学		(有) 5400
18日(金)	英語・国語		持参物：筆記用具
22日(火)	理科・社会	午後1:30～4:00	補習テキスト
23日(水)	数学・英語		教科書など



◎ゴメン!

今回も盛りだくさんにしてしまっって、「部落の起こりとその歴史」を載せることができませんでした。許しておくれ！次号には必ず第5話「華やかな時代のかけで」を載せます。

ちなみに次号は、8月合併号を全校招集日に出しますのでよろしく！